

第2次日進市地域福祉計画・第4次日進市地域福祉活動計画(案)パブリックコメント

第2次日進市地域福祉計画・第4次日進市地域福祉活動計画(案)

パブリックコメント実施結果

- 1 意見募集期間 平成26年12月24日(水)から平成27年1月23日(木)まで
- 2 意見提出者 6名
提出方法内訳 持参 2名
郵送 1名
ファックス 2名
電子メール 1名
- 3 提出意見数 11件
- 4 提出された意見と事務局の考え方 別添のとおり
※意見内容において、個人が特定できる内容等は除いています。

第2次日進市地域福祉計画・第4次日進市地域福祉活動計画(案)パブリックコメント

No.	箇所	意見内容	事務局の考え方
1	P.93 第5章 3.評価指標と目標値	評価指標と目標値、さらに目標値の根拠を示したのは大変素晴らしい。→又、必ず1年ごとの結果も今後記入し、成果をハッキリ明示願いたい。	各年度の成果は、計画の進捗管理を行う「日進市わたしのまちのしあわせづくり委員会」に提示し、評価していただく予定です。また、その成果及び評価の結果についてはHP等で公開していく予定です。
2	全般	プラン作成にあたり、市民の生の声がどのように反映されたかが不明確。結局市及び協議会の原案に対し修正を加える程度ではないだろうか？もっと生の声を活かせる方法を考えることも必要と思います。今後も見守っていきたいと思います。	計画内容については、可能な限りアンケート、座談会及び各種会議において出されたご意見を基に作成したものです。今後もより多くの市民の声をわかりやすく反映させるように努めていきたいと思います。
3	全般	私はなるべく歩く事を心がけて居ります。道を歩いていれば必ずといても車イスとか、又杖を使って居られるか、又片足の方がいます。私は必ずその人に声をかけます。最初は私も恥ずかしかったけど相手方は必ず喜ばれます。そこで色々話し合いお互いにうれしくなります。特に高齢者の方は誰かに話し合っしてほしいんだなあと良くわかります。	今回、出来るだけ市民の声を計画に反映させるため、各小学校区にて座談会を開催しました。ご意見にありますように高齢等の方々でも参加しやすいようできるだけ身近なところで座談会を開催するなど、今後も気軽に参加できる取り組みを進めていきます。また、計画ではつどいの場づくりを進めることで、気軽に声の掛け合える地域づくりを目指したものとなっています。
4	P.39 第3章 1.基本理念	第1次のキャッチフレーズ「できることからはじめます！思いやり・助け合い・にしん幸せまちづくり」が継続された事は良かったと思う。誰でも、いつでも志があれば出来る活動であると説明しやすい。	今後、地域で開催する説明会等においても、誰でもいつでもできることから地域福祉を進めることができるということを説明していきたいと考えています。
5	全般	この活動の原点は“人”です。どう探し出し、育て、つながっていくのか。ボランティアセンターが重要な役割をしなければならないと思うが、その人材があるのか疑問です。	人材の発掘・育成・連携やそうした活動を支援するボランティアセンターの重要性は計画全般に渡って記載しています。また、ボランティアセンターが中核となって、“人”の情報収集、情報発信、人材データベースの構築を進め、市民活動の支援を行っていく計画としています。さらに、地域たすけあい相談員(CSW)の配置や、各種の人材に関する支援事業についても、重点事業として記載しています。

第2次日進市地域福祉計画・第4次日進市地域福祉活動計画(案)パブリックコメント

No.	箇所	意見内容	事務局の考え方
6	P.45 第3章 3.-1.-(2)社協の体制の強化 P.62 第4章 2.-1.-(1)支援体制の構築～ 地域の相談窓口を設置します～	CSWという新しい言葉が出てきましたが、紙上の言葉に終わらぬ様、お願いしたいと思います。	CSW(コミュニティソーシャルワーカー)は地域福祉を推進する重要な役割となります。CSWが機能し、計画の内容を推進することで、計画が具現化できるように努めていきます。
7	全般/ P.5 第1章 2.-(3)地域社会における「互助」の重要性 P.83 第4章 2.-5.「つどいの場」の開設支援	地域福祉といってもその意味するところは深くて広い上に多様です。はっきりこれが答えだと言える人などいないでしょう。もともとそこに住んでいる人々の合意点など、求めても無理なことだと思います。日本は今、格差社会へと進んでいるように思えてなりません。でも国民は賢いですから方向転換を計る努力をするでしょう。地域福祉は身近な問題で毎日の生活そのものです。結局そこに住んでいる人達が地域を精神的に豊かで楽しい場所に作り上げてゆくかにかかっていると思います。模範となるような計画書を作っていたいただき有難うございました。	ご指摘のとおり、身近な地域での「互助」と、その地域に住んでいる人達がみんなで作り上げていく「つどいの場」のような存在が重要となります。そのため、計画においても、計画の重点内容として項目立てを行っています。
8	P.63 第4章 2.-1.-(2)わたしの問題はわたしたちの問題～地域課題を共有します～	平成26年度のサポーター会議により立派な“にっしん幸せまちづくりプラン”が出来上がったと思います。今後、これを実行に移していくについて、“協働の理念”は分かっているが、自らは行事に参加する事に消極的な人が未だ多い現状に於いては、まずは地域の区や自治会の住民の方々の中から地域社会の福祉の大切を知ってもらう人を増やす方策を進める事が先決で必要と考えます。この立派なプランが“絵に画いた餅”に終わらぬ様に、一日も早く実現する事を願っています。	計画の推進においては、ご指摘のとおり地域で生活する方々の理解が必須と考えています。本計画においては、地域における福祉課題が「わたしたちの問題」になるように、課題共有と啓発活動を重点事業として記載しています。平成27年度には小学校区や行政区などを対象に計画内容について説明会や勉強会を開催していくことで、地域の理解を広げていきたいと考えています。

第2次日進市地域福祉計画・第4次日進市地域福祉活動計画(案)パブリックコメント

No.	箇所	意見内容	事務局の考え方
9	P.90 第5章 1.- (1)地域ネットワーク(主に小学校区)の役割 P.82 第4章 2.- 4.- (4)移動支援体制の充実～福祉有償運送やボランティア輸送の育成～	<p>○災害時要援護者を含む高齢者への災害時支援、生活支援</p> <p>・高齢者に対する支援については、名簿の把握、スポット的な訪問に留まり、日常的な声掛け、通院・買い物等の生活支援まで手が及んでいません。</p> <p>・声掛けについて・・・ぶらっとホーム、行事(老人クラブを含む)に参加している人以外の方が困難。相談窓口を設けるなどの方法により実施したいと考えますが、行政、社協、或いは専門家の地域の根ざした具体的な指導が望まれます。また、人手によることの過重な負担から、先進的な地域で試みられているITなど情報機器を利用した安否確認のシステムの導入の検討も望まれます。</p> <p>・通院、買い物・・・南ヶ丘は通院に不便のため、これまでくるりんバス(南コース)のおりど病院立ち寄り、デマンド交通の検討を行政に提案してきましたが、今後、公共交通の機能を拡充し、デマンド交通、シャトルバス(民間の利用を含む)の導入などによる病院、市民会館、買い物などの利便性を図ることを検討されるよう望みます。</p>	<p>日常的な声掛けや訪問等については、従来より民生委員をはじめとし、行政区や自治会の関係者、ボランティア等の方々が様々な形で実施しています。計画では、より地域性を考慮しながら、より多くの市民が見守り活動ができるよう「まちの守り人養成講座」を開催することなどで見守り体制の強化を進めるとともに、将来的に地域の中で生活支援が取り組まれるような地域づくりを進めていくための支援体制づくりを目指しています。なお、ITを活用した安否確認システムについては、先進事例を参考によりよい見守り方法を検討していきたいと考えています。</p> <p>また、公共交通を含んだ移動支援については、福祉有償運送等の取り組みなどを、市全体の交通体系を考慮した上で、優先的に行う重点事業として位置づけています。</p>
10	P.83 第4章 2.- 5.「つどいの場」の開設支援 P.76 第4章 2.- 3.- (4)多職種連携～活動分野を超えた連絡会や交流会を実施します～	<p>○ぶらっとホームは、住民のたまり場として、囲碁・パソコン、カラオケ食事会などのサロン、講演・演奏などの行事等、それなりの実績を重ねてきました。地域の集会所を使っていることから、活動の範囲を広げ、ご高齢者の健康・生活・防災などの支援の相談窓口を設置したいと考えますが、そのための地域包括支援センターなど行政、社協などの専門機関の支援を望んでいます。</p> <p>例えば、その日は、特定地域の日として、定期的なスタッフの派遣、相談を行うとか、地域(この場合「区」単位)と直接結びついた仕組みの実現を期待します。</p>	<p>ぶらっとホームをはじめ、ほっとカフェやふれあい・いきいきサロンなど、地域の「つどいの場」の支援は、重点事業として位置づけており、より効果的な開催及び開設支援を検討し、行っていく予定です。</p> <p>また、地域の事業所や行政区が専門的な視点や異なる立場から地域づくりに参加できるような環境づくりも計画に位置づけています。</p>

第2次日進市地域福祉計画・第4次日進市地域福祉活動計画(案)パブリックコメント

No.	箇所	意見内容	事務局の考え方
11	P.63 第4章 2.-1.-(2)わたしの問題はわたしたちの問題～地域課題を共有します～	<p>○活動の地域の認知度の向上と人材の確保、スキルアップ、組織強化</p> <p>小地域福祉活動、ぷらっとホーム等の、地域における認知度は、向上しつつあるものの、十分ではありません。</p> <p>認知度のアップには、前述の課題の取り組みの推進が不可欠ですが、それには、人材の確保、スキルアップ、組織強化が必要となります。それらについて、当会として、自己努力を行うとともに、本計画の実施により、人材育成等する行政の支援、連携の強化が実現するよう期待します。</p> <p>また、本計画の中にあるように「赤い羽根」の募金を地域に還元されるような仕組みが実現すれば、資金面から活動の強化が期待できます。同時に、活動の公共的な側面が、住民に理解され、活動の認知度も一層向上することが期待できます。</p>	<p>本計画の推進のため、市内の各小学校区や行政区などを対象とした計画説明会や勉強会などの啓発活動を進めていきます。また、ほっとカフェなどの地域の取り組みについても併せて周知啓発を図っていきたいと考えています。さらに、人材育成や資金の地域還元の取り組みについても計画の重要な視点として位置づけています。</p>